(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7209702号
(P7209702)

(45)発行日　令和5年1月20日(2023.1.20)

(24)登録日　令和5年1月12日(2023.1.12)

(51)国際特許分類

Ｂ６７Ｄ	*1/08*	*(2006.01)*	Ｂ６７Ｄ	1/08	Ｚ
Ａ４７Ｊ	*31/00*	*(2006.01)*	Ａ４７Ｊ	31/00	３０２

請求項の数　3　（全10頁）

(21)出願番号　特願2020-517131(P2020-517131)
(86)(22)出願日　平成30年9月24日(2018.9.24)
(65)公表番号　特表2020-534222(P2020-534222A)
(43)公表日　令和2年11月26日(2020.11.26)
(86)国際出願番号　PCT/EP2018/075833
(87)国際公開番号　WO2019/057979
(87)国際公開日　平成31年3月28日(2019.3.28)
審査請求日　令和3年9月22日(2021.9.22)
(31)優先権主張番号　102017216857.9
(32)優先日　平成29年9月22日(2017.9.22)
(33)優先権主張国・地域又は機関
ドイツ(DE)

(73)特許権者　520095544
ブライェ，ヤン ルカス
ドイツ国 ドレスデン ０１１８７ ニュルンベルガー シュトラーセ ３０
(74)代理人　110002217
弁理士法人矢野内外国特許事務所
(72)発明者　ブライェ，ヤン ルカス
ドイツ国 ドレスデン ０１１８７ ニュルンベルガー シュトラーセ ３０
審査官　嘉村 泰光

最終頁に続く

(54)【発明の名称】　飲料調製の方法とシステム

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

飲用容器（２０）の位置決め装置（１３）および識別特徴の受信装置（１１）を備えた調製装置（１０）と、前記飲用容器（２０）を使用し、個別のレシピに従って飲料を調製する方法であって、

・１または複数の個別レシピを作成するステップと、

・前記個別レシピをデータ記憶装置（３１）のレシピプールに保存し、これにより、前記データ記憶装置（３１）はＥＤＰネットワークを介してアクセス可能であるデータ処理装置（３０）の一部とするステップと、

・識別特徴を前記レシピプールにリンク付けするステップと、

・前記飲用容器（２０）を前記調製装置（１０）内に位置決めするステップと、

・前記識別特徴を受信するステップと、

・前記識別特徴にリンクされている前記レシピプールにあるレシピに従って飲料を準備しながらレシピプールを取得し、これにより、２種類のレシピプールが前記データ記憶装置（３１）に保存され、前記データ処理装置（３０）は、最初のステップで、ユーザがすぐに使える少数のレシピを、前記調製装置が作成した第１レシピプール（１２０）から前記データ処理装置が選んで提案し、カウントダウンが始まると、前記第１レシピプール（１２０）からの自動選択が行われるよう設定され、一方で前記ユーザ（１２４）は自動調整を停止することができ、前記ユーザが前記自動調整を停止した場合、前記自動調整の停止の情報はＥＤＰユニット（１１０）に返され、前記データ処理装置（３０）は、前記デ

ータ記憶装置（３１）に記録された第２レシピプールから複数のレシピを前記調製装置、または前記ユーザが複数のレシピ（１３０）から選択できる別のランダム入力フィールドに送信するステップ、を含む方法。
【請求項２】
最初のステップで、前記第１レシピプール（１２０）の中から、前記調製装置（１０）が直接調整する単一の個別レシピが前記ユーザに提案される、というような質問（１２１）が行われることを特徴とする請求項１に記載の方法。
【請求項３】
前記データ処理装置（３０）が設置されることで、前記ユーザが前記自動調整を停止したあと、前記データ記憶装置（３１）に記録された前記第２レシピプールにある個別レシピを前記調製装置に送信し（１３２）、調整する（１３３）かどうかを決定する（１３１）ことが可能であることを特徴とする請求項１に記載の方法。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、飲料調製のための方法およびシステムに関する。本発明は、特に、個人固有の個別レシピに従って飲料を調製する方法およびシステムに関する。
【背景技術】
【０００２】
ユーザインタフェースを備える製品ディスペンサは、国際公開第２００９／０３２９４６号公報により公知である。消費者による入力は、ユーザインタフェースを介して製品ディスペンサに送信でき、これにより、入力は、所定の製品選択リストから製品の選択に関連することもできる。製品ディスペンサはまた、消費者と関連付けられた識別情報を取得できる読取装置を備えることもできる。個別レシピに従って飲料調製することはできない。
【０００３】
樽で利用可能な飲料を飲用容器に充填する飲料ディスペンサであって、ユーザの識別データが保存されるデータ記憶媒体用の読取装置を有する飲料ディスペンサが、国際公開第２０１４／１８８３８９号公報により公知である。ユーザが自分自身をこのタイプのデータ記憶媒体に認識させると、飲料ディスペンサは対応する量の飲料を樽から飲用容器に入れ、ユーザアカウントに飲料のコストを転記する。これは、データ記憶媒体上の識別データを介して同様に識別される。個別レシピに応じた飲料調製をすることはできない。
【０００４】
限られた数のコーヒー生成用レシピを保存できる記憶手段を有するコーヒーマシンも従来技術により公知である。既知メーカーの全自動コーヒーマシンの場合、例えば、４人のユーザに対して個人用の個々のプリセットを保存できる。これらのプリセットは、例えば、コーヒーの使用量、粉砕度、牛乳と牛乳の泡の割合、および／または抽出温度と関連付けることができる。ユーザは、最大４つまでコーヒーマシンに直接保存できるコーヒーレシピから１つを呼び出し、ユーザ個人用に調製されたコーヒーを入れることができる。したがって、このマシンでは、コーヒー調製用の４つの異なる個別のレシピを保存し、ユーザとマシンとの対話、すなわち、コンセプトの選択によってコーヒーの調製を行うことができる。したがって、ユーザは積極的に選択を行う必要がある。またさらに、ユーザはこのマシンでのみ、自分の個別のレシピに従ったコーヒー生成物を検索することができる。例えば、旅行中なら、対応設定が可能な装置に手動で設定すれば、自分の個別レシピに従ったコーヒー生成物を作ることができる。この目的のために、ユーザはそれぞれ個別のレシピを携行しなければならない。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００５】
【文献】国際公開第２００９／０３２９４６号公報
国際公開第２０１４／１８８３８９号公報

【発明の概要】
【０００６】
本発明の目的は、個別のレシピに従って飲料を調製する方法を提供することであり、その場合、ユーザは個別のレシピに従って飲料を簡単な方法で調製することができ、それにより、異なる場所で同じ個別のレシピに従った飲料を調製することができる。本発明の目的は、飲料の個々の調製のための対応するシステムを特定することでもある。
【０００７】
本発明によれば、この目的は、独立請求項１の特徴を含む方法によって解決される。本方法の有益なさらなる展開は、従属請求項２から９に続く。この目的は、請求項１０に記載のシステムによってさらに解決される。システムの有利な実施形態は、従属請求項１１から１５に続く。
【０００８】
個別のレシピに従って飲料を調製するための本発明の方法は、調製装置、例えば、飲用容器用、例えばカップの位置決め装置を備えるとともに、識別特徴の受信装置を備えるコーヒーマシンを使用する。本発明の方法はまた、飲用容器を使用し、そして個別レシピを作成するステップと、個別レシピをデータ記憶装置のレシピプールに保存して、データ記憶装置にＥＤＰネットワークを介してアクセス可能にするステップと、識別特徴をレシピプールにリンク付けするステップと、飲用容器を調製装置内に位置決めするステップと、識別特徴を受信するステップと、識別特徴にリンク付けされているレシピプールを検索するステップと、レシピプールからレシピに従って飲料を調製するステップと、によって特徴付けられる。飲料は、その後、調製装置によって飲用容器に充填することができる。
【０００９】
有利な実施形態では、識別特徴は、飲用容器と関連付けられた個々の特徴である。それにより、調製装置は識別特徴を受信することができる。この目的のために、調製装置は読取装置を備えることができる。飲用容器と関連付けられた個々の特徴は、幾何学的特徴、例えば、飲用容器の形状、飲用容器の重量、または、飲用容器のそれぞれの色または色の組合せであり得る。またさらに、個々の特徴は、コード、例えばバーコードやＱＲコードなどでもあり得る。またさらに、個々の特徴は、飲用容器と関連付けられたデータ記憶媒体に保存されている電子的特徴であることもでき、それにより、読取装置がデータ記憶媒体を読み取ることができる。読取装置は、例えば、カメラ、計算手段、および以前に保存された飲用容器の画像を含むデータベースを備える画像認識システム、またはスケールであり得る。
【００１０】
別の有利な実施形態の場合、識別特徴は、モバイル通信装置に保存され、そのため、モバイル通信装置は、近距離場での無線通信に適している。適切なモバイル通信装置は、例えば、ＮＦＣ対応装置、すなわち近距離通信機能を備えた装置である。さらに、例えば、ＲＦＩＤ（無線周波数識別）または他の無線規格、例えばブルートゥースなどを介して近距離場で通信できる通信装置も適している。これにより、通信技術は、異なる装置、例えば携帯電話、クレジットカード、身分証明書、例えばパスポートなどにインストールすることができる。
【００１１】
別の有利な実施形態では、生体認証機能を介した認証方法から知られているように、ユーザの生体認証機能が識別特徴として使用される。例えば、顔認識、虹彩認識または指紋認識がそれにより使用される。ユーザの生体認証機能から識別特徴を推測することもできる。
【００１２】
レシピプールには、単一レシピのみを含めてもよい。この場合、識別特徴とリンク付けされたレシピプールの検索後に、飲料は直接に調製される。
【００１３】
別の実施形態では、レシピプールは複数のレシピを含む。この場合、具体的なレシピの

選択は、識別特徴とリンク付けされているレシピプールの検索と飲料調製との間に行われる。これは、ユーザが調製装置において直接実行できる。しかし、それとは別に、モバイル通信装置でも行える。

【００１４】

ユーザは、個別のレシピを一度設定するか、既製のレシピを選択する。これは、調製装置において、または入力装置、例えばコンピュータやモバイル通信装置でも行うことができる。このレシピは、データ記憶装置のレシピプールに保存される。有利な実施形態では、データ記憶装置は、異なる調製装置、例えばクラウド内のデータベースによってアクセス可能な中央データ処理手段に保存される。しかしながら、代替的または追加的に、データ記憶装置はまた、局所的に、例えば建物内または調製装置内に設置することもできる。データ記憶装置には、ＥＤＰネットワーク、例えばインターネットまたはローカルネットワーク（ＬＡＮ）を介して、有線または無線でアクセス可能である。識別特徴は、レシピプールとリンク付けされる。これは、例えば、この目的のために、対応するデータ処理装置に動作可能に接続されているデータ記憶装置で行うことができる。

【００１５】

これらのステップを実行した後、ユーザは飲用容器を調製装置内に配置できる。次に、調製装置は識別特徴を受信する。その後、識別特徴とリンク付けされたレシピプールを検索するために、調製装置は、データ記憶装置と通信する。レシピプールにレシピが１つしかない場合、飲料はこの個別のレシピに従って調製装置によって調製され、飲用容器に充填される。レシピプールに複数のレシピがある場合、ユーザはレシピプールから所望のレシピを選択できる。これは、調製装置で直接実行することも、入力装置、例えばモバイル通信装置で行うこともできる。

【００１６】

レシピプールにレシピが１つだけ保存されている場合、したがって、ユーザと調製装置との唯一の必要な対話は、飲用容器を調製装置の配置装置内に位置決めすることにある。個別のレシピは調製装置によって自動的に検索され、飲料は個別のレシピに従って調製される。レシピプールに複数のレシピがある場合、ユーザはレシピプールから１つのレシピをさらに選択する必要がある。したがって、ユーザは、個別のレシピに従って飲料調製物を得るために追加の努力をする必要がないだけでなく、スイッチを操作することにより、従来技術で一般的である飲料調製の起動さえも省く。レシピは、中央データ記憶装置、例えばクラウドに保存されるため、個々の飲料調製は、異なる調製装置、特に異なる場所にある調製装置で行うことができる。例えば、ユーザが旅行している場合、ユーザは、対応する調製装置が利用可能な全ての場所で、自分の個別のレシピに従って飲料調製物を得ることができる。これに関連して、クラウドは、ＩＴインフラ、例えばＥＤＰネットワーク、例えばインターネットを介したサービスとしてのメモリ容量、コンピューティング容量、またはアプリケーションソフトの提供として理解すべきである。

【００１７】

ユーザが、複数のレシピをそれぞれ別のレシピプールに保存し、それらを異なる識別特徴とリンク付けできることは言うまでもない。異なる識別特徴がそれぞれ飲用容器に接続されている場合、ユーザは、ユーザが調製装置の位置決め装置の中へ配置する飲用容器に応じて、それぞれの個別のレシピに従って飲料調製物を得る。

【００１８】

有利な実施形態では、識別特徴をレシピにリンク付けするために、ＩＤがそれぞれの飲用容器に割り当てられる。同様に、ＩＤがレシピに割り当てられ、これにより、飲用容器のＩＤは、データ記憶装置内のレシピのＩＤとリンク付けされる。

【００１９】

個別のレシピに従って飲料を調製するための本発明に係るシステムは、当該システムが読み取り可能な識別特徴を有する装置と飲料の調製装置とを有し、それにより、調製装置は、識別特徴の受信装置と、データ記憶装置にデータを送信する送信装置と、識別特徴とリンク付けされたレシピを受信する受信装置と、またデータ記憶装置とを有することを特

徴とする。これにより、送信装置、および識別特徴にリンク付けされたレシピを受信するための受信装置を１つの装置に組み合わせることができる。これにより、送信装置、および識別特徴にリンク付けされているレシピを受信するための受信装置は、無線でそれぞれ送信または受信するための１つまたはそれぞれのアンテナを有することができる。しかし、送信装置、および識別特徴にリンク付けされているレシピを受信するための受信装置は、それぞれ有線受信用または有線送信用に設定することもできる。読み取り可能な識別特徴を有する装置とは、上記のように、例えば、対応する飲用容器またはモバイル通信装置であり得る。

【００２０】

有利な実施形態では、データ記憶装置は、様々な調製装置によってアクセス可能な中央データ処理手段に設定される。また、ＥＤＰネットワークを介してデータ記憶装置にアクセス可能な場合にも有利であることが判明している。

【００２１】

代替実施形態では、データ記憶装置は、局所データ処理手段、例えば、調製装置が収容される建物内または調製装置自体の中に設定される。

【００２２】

特に有利な実施形態では、飲用容器は、飲用容器を識別する日付が保存されるデータ記憶媒体を有し、調製装置は、飲用容器を識別する日付を読み取ることができる読取装置を有する。

【００２３】

さらに有利な実施形態では、識別特徴は、近距離場での無線通信に適した通信装置に保存され、それにより、調製装置は、識別特徴を読み取ることができる受信装置を有する。例えば、ＮＦＣ対応の通信装置は、近距離場での無線通信に適している。またさらに、識別特徴が、ＲＦＩＤによって、または別の無線規格、例えばブルートゥースによって通信できる通信装置に保存されていることも考えられる。

【００２４】

さらなる有利な実施形態では、生体認証機能を介した認証方法から知られているように、識別特徴とはユーザの生体認証機能である。例えば、顔認識、虹彩認識または指紋認識がそれにより使用される。この場合、調製装置はこの生体認証機能の読取装置を有する。ユーザの生体認証機能から識別特徴を推測することもできる。

【００２５】

本発明に係るシステムで使用される調製装置は、個別のレシピによる飲料調製に限定されない。調製装置は、一般に、標準レシピに従って飲料を調製するように設定することもできる。この標準レシピは、調製装置自体内のデータ記憶装置または中央データ処理手段内に設定でき、中央データ処理手段には、異なる調製装置からアクセス可能である。

【００２６】

本発明のさらなる特徴、特別な特徴、および適切なさらなる展開は、従属請求項および例示による好ましい例示的な実施形態の以下の説明から得られる。

【図面の簡単な説明】

【００２７】

【図１】個別のレシピに従って飲料を調製するための本発明に係るシステムを示す。

【図２】個別のレシピに従って飲料を調製するための本発明に係るシステムのさらなる実施形態を示す。

【図３】レシピを用いて飲料を直接に分配するフローチャートを示す。

【発明を実施するための形態】

【００２８】

図１は、個別のレシピに従って飲料を調製するための本発明に係るシステムを示す。調製装置１０は、飲用容器２０を位置決めするための位置決め装置１３を有する。飲用容器２０は、個々の特徴２１を有する。この個々の特徴２１は、例えば、読み取り可能なように個々のデータが保存されるデータ記憶媒体であり得る。調製装置１０は、その助けを借

りて個々の特徴２１を受信することができる受信装置１１も有する。またさらに、調製装置１０は、送信装置１４と受信装置１５とを有する。個々の特徴２１を有する飲用容器２０が調製装置１０の位置決め装置１３内に配置される場合、受信装置１１は飲用容器２０の個々の特徴２１を受信する。個々の特徴２１は、送信装置１４を介して、送信日４０として、データ記憶装置３１を有するデータ処理装置３０に送信される。個々の特徴２１と事前にリンク付けされたレシピは、データ記憶装置３１内で検索され、受信データ４１として、調製装置１０の受信装置１５に送信される。次いで、調製装置１０は、個別のレシピに従って飲料を調製し、それを飲用容器２０に充填する。クラウドが、データ記憶装置３１として図に示されている。送信データ４０および受信データ４１は、ＥＤＰネットワーク（図示せず）を介して、この場合、例えばインターネットを介して、データ記憶装置３１と調製装置１０との間で送信される。

【００２９】

ユーザは、調製装置１０で、予め保存された個別のレシピをデータ記憶装置３１に、例えば直接に作成または入力することができる。コンピュータ（図示せず）を介した個別のレシピの作成または入力は、さらなるオプションとして可能であり、それにより、コンピュータは同様に、ＥＤＰネットワークを介してデータ記憶装置３１に接続される。ここで、ＥＤＰネットワークはまた、インターネットであってもよい。しかしながら、コンピュータおよびデータ記憶装置３１がこのＬＡＮ（ローカルエリアネットワーク）内にある場合、ＬＡＮを介した接続も同様に可能である。個々の特徴２１を介した飲用容器２０の個別のレシピへのリンク付けは、データ記憶装置３１内で行われ、同様に、調製装置１０または別の装置、例えばデータ記憶装置３１に接続されたコンピュータを介して行うことができる。

【００３０】

図２は、個別のレシピに従って飲料を調製するための本発明に係るシステムのさらなる実施形態を示す。この実施形態では、識別特徴を有する装置は携帯電話２２である。携帯電話２２は、一点鎖線の矢印で示される受信装置１１、例えばＮＦＣまたはブルートゥースを介して調製装置１０にデータを送信する。このデータは、個々の特徴２１を表す。

【００３１】

この実施形態では、調製装置１０は、飲用容器２０を配置するための位置決め装置１３も有する。この実施形態では、飲用容器２０は個々の特徴２１を必要としない。調製装置１０は、その助けを借りて個々の特徴２１を受信することができる受信装置１１も有する。また、図１で説明した実施形態と同様に、調製装置１０は、さらに送信装置１４と受信装置１５とを有する。飲用容器２０が調製装置１０の位置決め装置１３内に配置された場合、かつ個々の特徴２１が携帯電話２２を介して受信装置１１に送信される場合、個々の特徴２１は、送信日４０として、調製装置１０の送信装置１４を介して、データ記憶装置３１を有するデータ処理装置３０に送信される。個々の特徴２１と事前にリンク付けされたレシピは、データ記憶装置３１内で検索され、受信データ４１として、調製装置１０の受信装置１５に送信される。次いで、調製装置１０は、個別のレシピに従って飲料を調製し、それを飲用容器２０に充填する。

【００３２】

図１に示す実施形態と比較したこの実施形態の利点は、ユーザが、異なるレシピを保存しており、異なる個別のレシピに従って飲料を得たい場合、ユーザは、異なる個々の特徴２１を含む異なる飲用容器２０を必要とせず、または飲用容器２０を調製装置１０の位置決め装置１３に配置した後、レシピプールから具体的なレシピをそれぞれ選択する必要がない。それどころか、ユーザは、対応するデータを調製装置１０に送信する前に、携帯電話２２でこの選択を行う。

【００３３】

図３は、レシピを用いて飲料を直接に分配するフローチャートを示す。

【００３４】

ユーザは、明確な特徴によって最初に識別される（１００）（図１および図２の１１を

参照）。次に、明確なＩＤ（１０１）がＥＤＰユニット（１１０）に送信される（図１および図２の３０、３１を参照）。

【００３５】

ＥＤＰユニットには、２種類のレシピプールが保存されている。例えば、１つのレシピのみが第１レシピプール１２０で発見でき、より多くのレシピが第２レシピプール１３０に存在できる。

【００３６】

第１のステップでは、ユーザが即座に管理できる少数のレシピ、好ましくは、（第１のレシピプールからの）単一の個別のレシピ（１２０）が、調製装置（図１および図２の１０を参照）による直接調製のためにユーザに提案される。

【００３７】

それにより、第１レシピプール１２０は、第２レシピプール１３０よりも少ない数のレシピを含むことが好ましい。

【００３８】

第１レシピプール（１２０）からレシピが選択されていない場合、第２レシピプール１３０が表示されることが望ましい。

【００３９】

第１レシピプール１２０からレシピが選択されていない場合、第２レシピプール１３０が表示されることが望ましい。

【００４０】

第１レシピプール１２０が使用されない場合、第２レシピプール１３０が表示されることが望ましい。

【００４１】

カウントダウンが行われるとき、第１レシピプール１２０から自動選択が行われることが望ましい。

【００４２】

第１のステップでは、（第１レシピプールからの）単一の個別のレシピ（１２０）が、調製装置による直接調製のためにユーザに提案される（図１および図２の１０を参照）。質問１２１が行われる。ユーザ１２４は、この自動調製を停止できる。この終了は、例えば調製装置自体において行うことができるが、それに限定されない。

【００４３】

ユーザが終了しない場合－ケース１２２、カウントダウンが行われ、停止の時間が定義され（１２２）、第１のプールからの個別のレシピの調製が行われる（１２３）。

対照的に、自動調製が終了された場合（１２４）、この情報はＥＤＰ装置に返される（１１０）。

【００４４】

終了後、ＥＤＰユニットは、１つの／複数のレシピを第２のプールから調製装置または別のランダム入力フィールドに送信し、ユーザは、そこでレシピ（例えば、携帯電話）から選択できる（１３０）。

ここで、ユーザは、ＥＤＰユニットの第２のプールからの個別のレシピを調製のために調製装置に送信し（１３２）、調製するかどうか（１３３）を決定する必要がある（１３１）。

【００４５】

代替として、第２のプール（１３０）からの選択も行えない（１３４）ため、調製装置についてデフォルトで利用可能なレシピが選択可能になる（１３４）。デフォルトのレシピ（１４１）を選択すると、ユーザは選択フィールドに移動し、このフィールドにこれまでに説明したシステムがなくても他のユーザがアクセスできる。これにより、レシピの選択（１４１）と次いで調製（１４３）が行われる。

【００４６】

レシピプールが空の場合、プロセス１２０または１３０はそれぞれスキップできる。し

たがって、明確なＩＤ　１０１の送信は１３０なしで、１２０／１２１／１２４を介して１４１に直接、または１０１から１３０に直接、それから１３２／１３４に送信することも可能になる。

【００４７】

ここに示される実施形態は、本発明の例にすぎず、したがって、限定として理解されるべきではない。当業者によって考慮される代替の実施形態は、本発明の保護の範囲によって同等に捉えられる。

【符号の説明】

【００４８】

１０　調製装置
１１　受信装置
１３　位置決め装置
１４　送信装置
１５　受信装置
２０　飲用容器
２１　個別の特徴
２２　携帯電話
３０　データ処理装置
３１　データ記憶装置、クラウド
４０　データ送信
４１　データ受信
１００　ユーザの識別
１０１　明確なＩＤ
１１０　ＥＤＰユニット
１２０　第１レシピプール
１２１　質問
１３０　第２レシピプール
１２１　質問
１２４　自動調製の終了
１２２　カウントダウンが行われる
１２３　第１のプールからの個別のレシピの調製
１３０　任意の入力フィールド
１３１　ユーザの決定
１３２　さらなる（第２）レシピプールからの選択
１３３　ＥＤＰユニットの第２のプールからの個別のレシピを調製のために調製装置に送信するかどうか、および飲料を調製するかどうかを決定
１３４　第２のレシピプールから選択が行われない場合のプロセス
１４１　調製装置のレシピの標準的選択
１４３　飲料調製

【図面】

【図１】

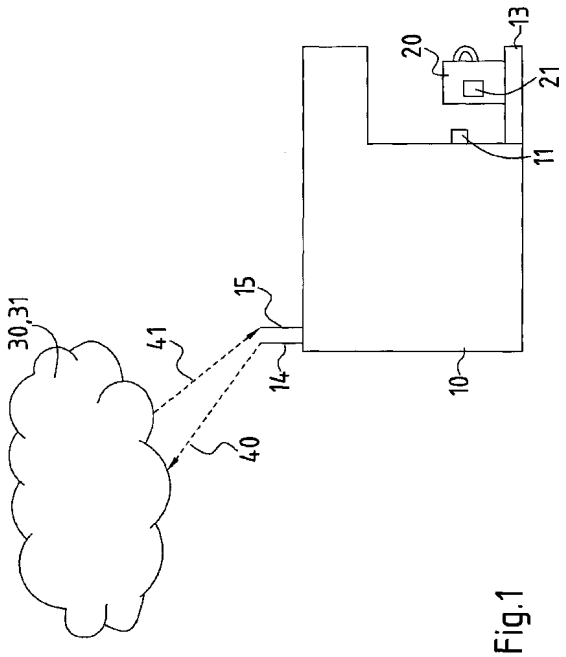


Fig.1

【図２】

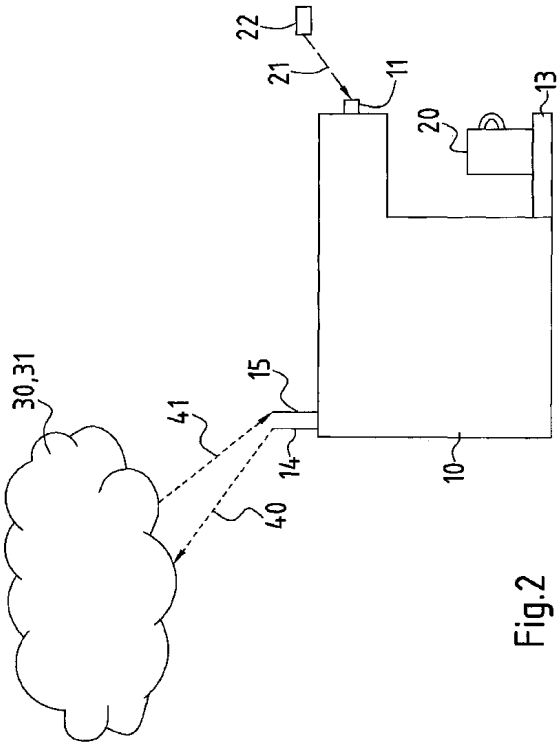


Fig.2

【図３】

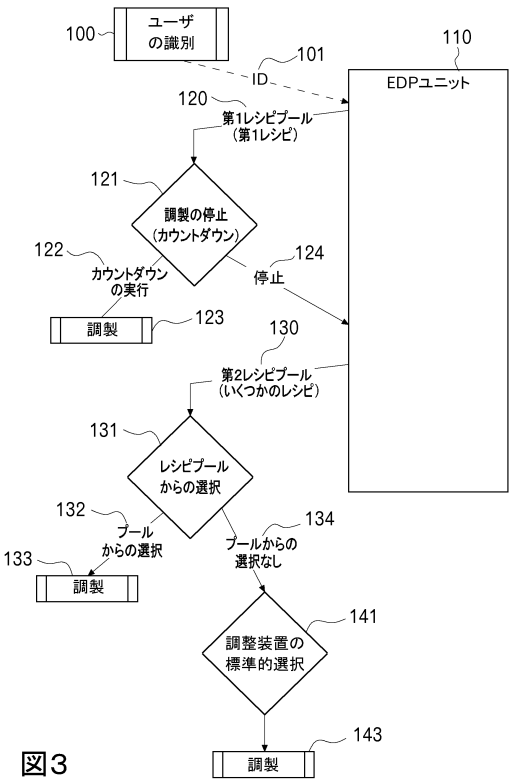


図3

フロントページの続き

(56)参考文献 特表２０１０－５３７９１６（ＪＰ，Ａ）
特表２００３－５０６１０８（ＪＰ，Ａ）
特表２０１７－５１８５５０（ＪＰ，Ａ）
特開２０１８－１８４１９６（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野 (Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ４７Ｊ ３１／００－３１／６０
Ｂ６７Ｄ １／００－ ３／０４